

ロトリガ発売2周年記念講演会

謹啓

先生におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、平素は弊社製品につきまして格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
この度、下記の通り講演会を企画させて頂きました。
ご多忙中とは存じますが、ご参集賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。
敬白

日時

2015年2月3日(火) 19:30～21:10

場所

ホテルモリノ新百合ヶ丘 7F「桜の間」
川崎市麻生区上麻生1-1-1 044-953-5111



製品
紹介

ネシーナ錠、リオベル配合錠の特性について

武田薬品工業株式会社 北川琢真

講演 I

19:40～20:20

座長

聖マリアンナ医科大学 薬理学講座 教授 松本 直樹先生

『 ω 3脂肪酸の分子栄養学』

演者

理化学研究所 統合生命医科学研究センター

メタボローム研究チーム チームリーダー 有田 誠先生

講演 II

20:20～21:10

座長

土屋医院 院長 土屋 広明先生

『EPA/DHAと生活習慣病』

～ ω 3系多価不飽和脂肪酸による脂質・免疫・炎症への影響～

演者

東邦大学医療センター佐倉病院

糖尿病内分泌代謝センター 教授 龍野 一郎先生

* 当日は情報交換の場を設けております

主催：▲ 武田薬品工業株式会社

演者Message

理化学研究所 統合生命医科学研究センター

メタボローム研究チーム チームリーダー

有田 誠先生

エイコサペンタエン酸 (EPA) やドコサヘキサエン酸 (DHA) に代表されるオメガ3系多価不飽和脂肪酸には抗炎症作用や心血管保護作用、抗がん作用などがあることが知られている。しかしながらこれらの脂肪酸がなぜ体によいのか、分子レベルの解明は遅れている。そこで本研究では、EPAやDHAなどオメガ3系脂肪酸の代謝および生理機能を分子レベルで解明することを目的としている。オメガ3系脂肪酸は主にアラキドン酸代謝系と競合することで炎症を抑制すると考えられてきたが、最近新たにオメガ3系脂肪酸から生成する抗炎症性代謝物（レゾルビンやプロテクチンなど）が見いだされ、その生理機能が注目されている。このような背景のもと、我々はアラキドン酸およびオメガ3系脂肪酸由来の代謝物を包括的に捉える目的で、LC-MS/MSを用いた脂肪酸代謝物の包括的メタボローム解析システムを確立した。また、オメガ3系脂肪酸を合成出来るように遺伝子改変した、オメガ3系脂肪酸合成酵素 (*fat-1*) トランスジェニックマウスを導入している。この*fat-1*トランスジェニックマウスは、炎症性疾患やがんに対して強い抵抗性を示し、これまで栄養学的な解析しかなされてこなかったオメガ3系脂肪酸の生理機能に対して遺伝学的な根拠を与え、かつ分子レベルでの解析が可能になった。これらを用いて、オメガ3系脂肪酸の抗炎症作用に関わる代謝経路および新規メディエーターの同定を目指した研究について紹介する。

東邦大学医療センター佐倉病院

糖尿病内分泌代謝センター

教授

龍野 一郎 先生

イヌイットは北極圏に住む先住民族で、以前から心筋梗塞などの生活習慣病の発症が少ないことが知られており、1971年にデンマークの疫学者ダイエルベルグとバングによって魚油の主成分である ω 3系多価不飽和脂肪酸(EPA・DHA)の摂取の多い事が原因であると報告された。日本人は魚食の好きな代表的民族だが、日本人の健康に魚油は役立っているのだろうか？その問いに対する初めての疫学調査は千葉県で勝浦市川津の漁民と柏市藤心に在住する農民を比較する事によって行われた。その調査の中で漁民は農民に比べて魚の摂取量が3倍も多く(EPAとして平均2.6g/day)、中性脂肪の値がほぼ半減していた。そして心血管疾患・脳血管障害の発症率がいずれも有意に低いことが明らかにされた。この研究はその後数年にわたって行われ、カツオ漁の不良な年には漁民のEPAの摂取量が低下して、それにつれて心血管の発症率が増加することもわかった。 ω 3系多価不飽和脂肪酸の中性脂肪低下に代表される脂質代謝プロファイルの改善作用は有名であるが、加えて抗炎症作用が注目を集めてきた。ハーバード大学のグループは ω 3系多価不飽和脂肪酸から新たな代謝産物（リソルビン・プロテクチンなど）が生成されることを発見し、しかもこれらの代謝産物が強力な抗炎症物質であることが証明した。このように魚油の研究が始まってわずか40年、科学の進歩は多価不飽和脂肪酸の研究に光を与え続け、魚油 ω 3系多価不飽和脂肪酸が生体の恒常性、そして健康維持に重要な役割を担っている事が続々と明らかにされて来ている。